

アドレスホッパー（無拠点・多拠点生活者）の実態調査

—旅するように暮らすとは—

氏名 吉山 浩

指導教員 松田 憲

要旨

近年、特定の住まいを持たず、国内外問わず日々移動しながら住まいを選ぶ、無拠点もしくは多拠点生活者である「アドレスホッパー」と呼ばれる人たちがいる。彼らは、昭和時代にあった「人生すごろく」のような古き良き価値観に疑問を抱き、今までは存在しなかった「旅するように暮らす」ライフスタイルを実践している。2019年4月に国土交通省は、不動産業の持続的発展を確保するための官民共通の指針として「不動産業ビジョン2030～令和時代の「不動産最適活用」に向けて～」を発表した。日本の少子高齢化・人口減少の進展も相まって、不動産の空き家や空き地等の遊休不動産は増加してきている課題があり、その解決手段として不動産の所有から利用への転換が挙げられている。

本研究は、1つは、近代の人々が時代の流れから不動産に対する価値観を国が掲げているような所有から利用へ変化させてきているのかを明らかにした。もう1つは、定住を選ばず、日々移動することを選んだアドレスホッパーの実態を調査するとともに、アドレスホッパーのパーソナリティを明らかにした。日本国内の143名にアンケート調査を実施し、分析には、パーソナリティの特性論である特性5因子理論(Big-Five)を用いた。

アドレスホッパーのライフスタイルを支持する人は少なからずおり、アドレスホッパーを支えるサービスも生まれてきている。また、アドレスホッパーへの興味関心と行動の度合いで分類したところ、特性5因子理論による特徴が明らかになった。その特徴が、今後の社会課題解決の糸口になる可能性を秘めている。